

NEWS LETTER

2026 VOL.45

PLOTTER TOKYO

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第45号

発行日 | 2026年1月30日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058

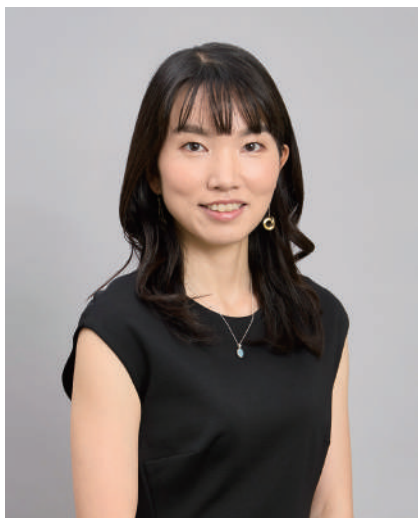
株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-19-19 恵比寿ビジネスタワー 9F

www.designphil.co.jp



なぜ私たちは「挑戦」できるのか？



代表取締役社長

会田 ゆり

私たちは皆、誰にも邪魔されず、ひたすら目の前の課題に没頭したり、未知の領域に思い切って挑戦したりする力を持っています。

その力の源泉を探るとき、イギリスの小児科医・精神科医であるドナルド・ウィニコットの提唱した「独りでいる能力 (Capacity to be Alone)」という概念が、重要な示唆を与えてくれます。ウィニコットは、幼児が安心して「独り」でいられるのは、心の内に安心と自信を与えてくれる「良い対象 (母親ないし養育者の存在)」が確保されているからだと洞察しました。この揺るぎない「安全な基地 (Secure Base)」の信頼があるからこそ、子どもは思い切って世界を探求できるのです。

これは大人になっても変わらない真理ではないでしょうか。私たちが思い切って未知の世界に一步踏み込んだり、限界まで探求したりすることができるのは、傷ついても、失敗しても、必ず帰る場所、受け止めてくれる存在があるという信頼があるからに他なりません。何の後ろ盾もない状態で、人は心底何かに没頭したり、思い切り挑戦したりすることはできないのではないのでしょうか。

かくいう私自身も、これまで公私ともに大小さまざまな挑戦を重ねてきましたが、決して独りではできなかったでしょう。「きっと大丈夫」「なんとかなるさ」という根拠のなき自信は、両親の存在そのものや、帰るべき家・居場所の存在が大きかったように思います。

この視点から翻って、デザインフィルという組織の存在意義を考えてみたいと思います。私はデザインフィルを、社員一人一人の個性と、そこから生まれるクリエイティビティの発露を、静かに見守り、後ろ支えする「家」のような存在でありたいと考えています。その思いを「ハウス・オブ・ブランド」という、デザインフィルとは何者なのかを一言で表す言葉に込めました。

私たちは普段、自分たちが住んでいる家のありがたみを意識することはありません。しかし、その存在そのものが、私たちの日常に不可欠な安心感を与えてくれています。デザインフィルもそのような存在でありたい。社員が安心して挑戦・没頭するための源泉となり、本当に必要なときにそこにあり、社員の、挑戦・没頭するために欠かせない「安全な基地」となること。この「ハウス・オブ・ブランド」に込めた思いを記事にまとめ、昨年12月にデザインフィル公式noteで公開しています。「ハウス・オブ・ブランドに込めた思い」で検索して、ぜひご覧ください。

「ハウス・オブ・ブランド」を後ろ盾に、社員一同、嬉々として挑戦を続けています。

その挑戦の象徴として、昨年9月に「PLOTTER TOKYO」旗艦店を原宿にオープンいたしました。これまでたくさんのお客さまにご来店いただき、この場所を起点に「いい時間」の輪が広がり続けていることを大変うれしく思います。

そして本年1月には、新しく生まれ変わった「MD PRODUCT」をついにお披露目できたことをとても誇らしく思います。「MD PRODUCT」は、「余白＝立ち止まって自分と向き合うこと」という新しい概念を提唱し、これまでのノートブランドの枠を越え、「余白」の代名詞的なブランドへと生まれ変わります。「世界に余白を取り戻そう」という壮大なビジョンに向かって、挑戦の一步を踏み出しました。これからも皆さまのご支援を力に、いい製品、いい体験、いい場、そして「いい時間」を届けてまいります。

私たちはこれからも挑戦し続けます。

建物のこだわり

Architectural Concept

建物のコンセプトは「EMBRACE（エンブレイス）～二つの要素が共鳴し合う～」。革と金属、モノトーンとカラフル、伝統と革新といった、異なる二つの要素を対比させながら一体化させることで、新たな価値を生み出すというブランドの姿勢を表現しています。

2冊の『レザーバインダー』を立てかけたような細長い建物。

正面に突き出たオレンジ色のキャノピー（エントランスの張り出し部分）は、『レザーバインダー』を広げた姿をイメージしています。

お店の顔となる、「PLOTTER」のロゴとサークルマークを配した真鍮製の看板プレート。

実は、かつて「KNOX」のお店があったこの場所。当時の建物で使われていたアドレスナンバープレートが、入口にそっと設置されています。

SPECIAL EDITION PLOTTER TOKYO

PLOTTER TOKYO

in

HARAJUKU

2025年9月23日にオープンした、
「PLOTTER」初の旗艦店、「PLOTTER TOKYO」の魅力をたっぷりとご紹介します。

「PLOTTER TOKYO」のコンセプトは「Connecting Through Creative Communication ～プロッターたちがクリエイティブコミュニケーションでつながる特別な場所～」。

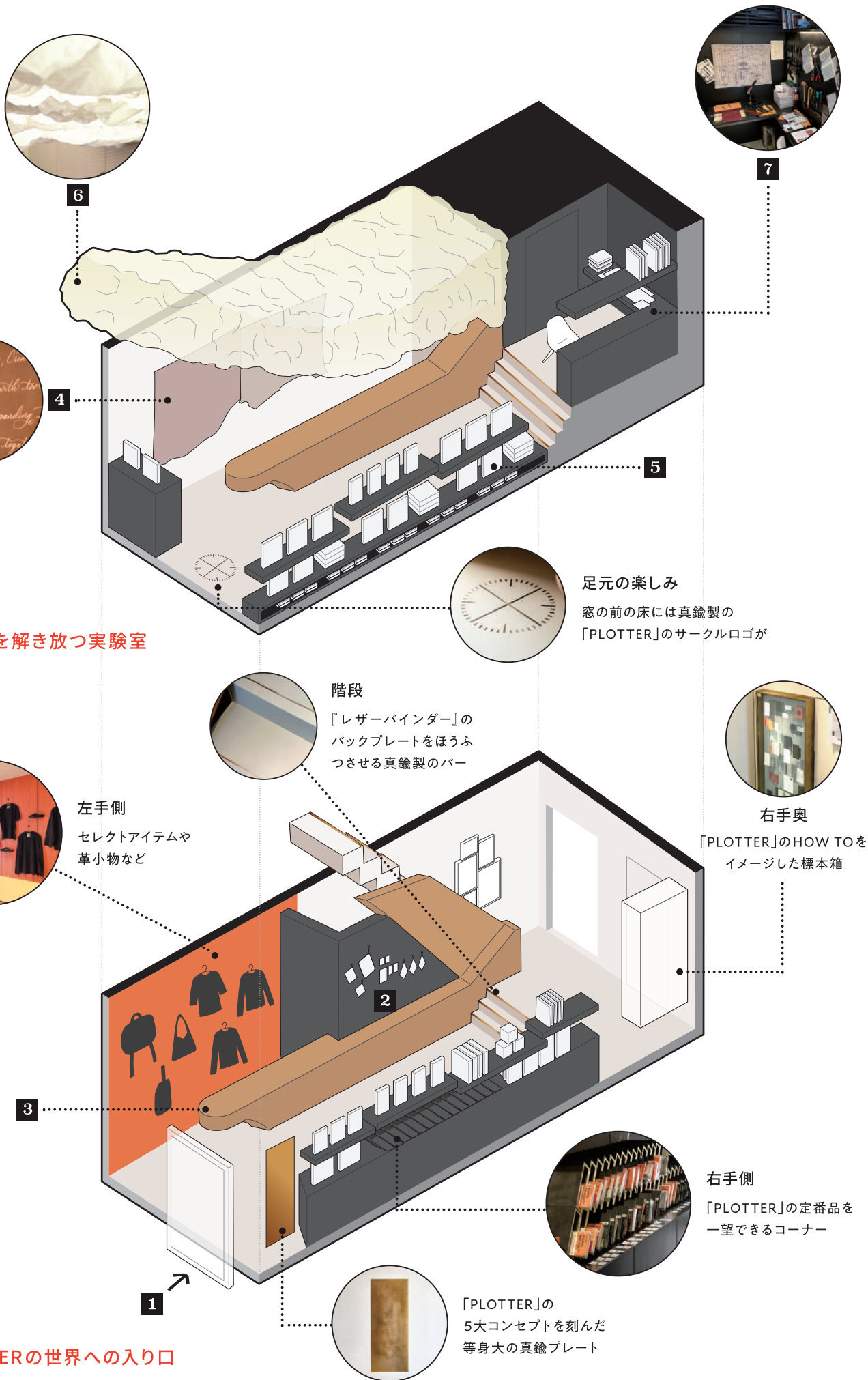
創造力で未来を切り拓く人、すなわち「プロッター」たちが集い、コミュニケーションを繰り広げることで、いつも新しい何かが生まれているリアルな魅力であふれる場を目指しています。

2F

創造力を解き放つ実験室

1F

PLOTTERの世界への入り口



SPECIAL EDITION PLOTTER TOKYO



1 店内へ一歩足を踏み入れると、思わず深呼吸をしたくなるような革の香りが広がっています。

2 旗艦店限定販売の革小物「LOOP」シリーズなどが並びます。

3 思わず目を奪われる、職人の手仕事が光る総革巻きのテーブルと手すり、1階から2階へと続きます。ソファなどにも使用される堅牢な革で、手触りも抜群です。

4 壁一面のパンチングウォールには、「PLOTTER」のクリエイティブの源泉となる革やプロダクションスケッチなどをディスプレイしています。壁に掛けた革に描かれているドローイングは全てブランドディレクターの手によるもの。

5 旗艦店ならではの限定『レザーバインダー』や、個性豊かな革・パーツがずらりと並び、特別な一点との出会いが待っています。

6 見上げると目に飛び込んでくるのは、天井に広がる巨大な雲のようなシェード、「創造力の雲（クラウドライティング）」。「PLOTTER」にとって、欠かせない素材である紙の原点、和紙を使って表現しており、どこか浮遊感を感じます。

7 2階奥にはちょっとした工房があり、普段プロトタイピングや修理を行っている現場をそのまま再現。ゆくゆくはイベント時のカスタマイズやメンテナンスを行うスペースとして活用していく予定です。

No.1

レザーバインダー Embrace

「PLOTTER TOKYO」の建物のコンセプトである「EMBRACE」を体現すべく、表側に日本の伝統である漆の技術を施したレザー、内側にはナチュラルなヌメ革と、2つの異なる革を使用した『レザーバインダー』。職人の手で2枚の革をまるで1枚の革だったかのように貼り合わせた、特別なフラッグシップモデルです。



No.2

レザーバインダー Predator 琥珀

アメリカで唯一無二の素材を生み出し続ける老舗 Tanner-HORWEEN社と、2年余りの開発期間をかけて作り上げたオリジナルコラボレーションレザー。ブラウンともオレンジとも言い難い、使い込むほどに表情を変えるその様子は、あめ色に輝く琥珀をほうふつさせます。



旗艦店限定アイテム

Flagship Exclusive Items

「PLOTTER TOKYO」では旗艦店限定アイテムを多数ご用意して皆さまのご来店をお待ちしております。ここでは注目の限定アイテムを一部ご紹介します。



No.3

レザーバインダー
Horse Spirit Hide

2024年12月のPOP UPイベントの限定品が旗艦店限定アイテムとして復刻。HORWEEN社の馬革のバット部分(コードバンの上部)の革を採用しています。なめし以外、一切加工を施していない無垢な馬革は、ラフで自然な風合いがあります。使い込むほどに深みとツヤが増すエイジングと耐久性が魅力です。



No.4

ペーパーディバイダー 原宿柄

『レザーバインダー』に挟む『リフィル』を編集する際に力を発揮する『ペーパーディバイダー』。グラフィックデザイナー小玉文氏とコラボレーションし、「PLOTTER」らしいアートで展開しました。タイポグラフィ、建築、幾何学模様などさまざまな要素を「PLOTTER」の世界観に落とし込み、旗艦店がある「原宿」を表現しています。

No.5

リフィルメモパッド 1mm方眼

「PLOTTER」の『リフィルメモパッド』は2mm方眼が定番のアイコン的フォーマットです。今回、「PLOTTER TOKYO」オープンを記念して、限定デザインが誕生しました。方眼のピッチは「グラフペーパー」とも呼ばれる1mm方眼。「1」は最小でありながら、万物の始まりを想起させます。新たな創造を生む場「PLOTTER TOKYO」にふさわしく、「クリエイションの始まり」を予感させる新フォーマットです。



Shop Information

PLOTTER TOKYO

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前3丁目29-3

Tour & Brand Director's Voice

店内ツアーと「PLOTTER」ブランド
ディレクター斎藤崇之のインタビュー
をこちらからご覧いただけます。



TOPICS

余白は、可能性。

～心に余白を育むブランドへ～

新ブランド「MD PRODUCT」誕生

2008年から、「ミドリ」のノートシリーズとして歩んできた「MD PAPER PRODUCTS」は、「ミドリ」ブランドから巣立ち、2026年1月に「MD PRODUCT」として、新たな一歩を踏み出しました。

原点は1960年代に生まれた「MD用紙」という1枚の紙。この紙に長年向き合った私たちは、やがて「書く」が持つ本質的な価値に気づきました。それは、思考を整え、素直な心や感性を表現することが、自分と向き合う大切な時間だということ。私たちは、これを「余白」と呼んでいます。「余白」をつくる体験を、紙の上だけでなく、空間、日々、そして人生そのものへと広げていきたい。1枚の紙からはじまったプロダクトは、心に「余白」を育むブランドへと深化します。

私たちが大切にしたいのは、「余白を持つ」という選択。

MD
PRODUCT

忙しく過ぎる日々の中で、寄り道を愉しむような時間を暮らしに取り入れること。

少し立ち止まることで、新たな発想や気づきが芽生える。

余白があることで豊かさが生まれる。

「MD PRODUCT」は自分と向き合う時間を大切にするブランドです。

3
つ
の
柱

「MD PRODUCT」では

- ①「書く」を愉しむツール(ステーションナリー)
- ②「自分」と向き合う環境づくり(ライフスタイル)
- ③「らしさ」を解放する体験(空間デザイン)

の3つを柱として、さまざまな製品や体験を提供していきます。

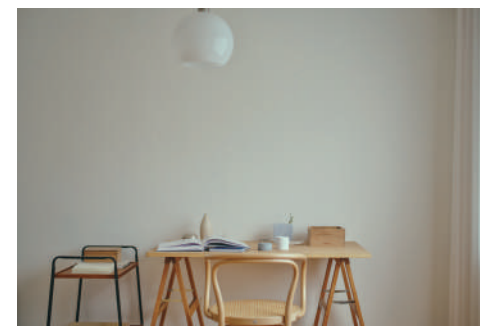
「書く」を愉しむツール

書くことを愉しむためのツールの開発を中心に、プロダクトを通じて誰もが自由に自分らしさを表現できる世界を目指します。



「自分」と向き合う環境づくり

自分と向き合うための時間・空間・プロダクトを五感に訴える形で創出し、「余白」をつくる環境をサポートします。



「らしさ」を解放する体験

誰もが自分らしく在っていいと思える自由な表現を体験できる場を提供することで、共感や熱狂を生み、人々の人生を豊かにします。



「自分と向き合う環境づくり」のアイテムを発売しました

※「MD PRODUCT オンラインストア」限定製品



MD 香時計

— Scent Clock —

ゆっくりと1周する香り
思考と心をほどこく



お香の香りと煙が1時間をかけてゆっくりと円を描きます。
その間、ノートを開いたり、瞑想にふけたり、ただ静かに
目を閉じて心をほどこいたり。
お香が燃えていく様子を眺め、香りでリラックスする。
そんな自分だけの時間を感じられる、「余白」の提案です。

MD ペンレスト

— Pen Rest —

ペンに居場所を

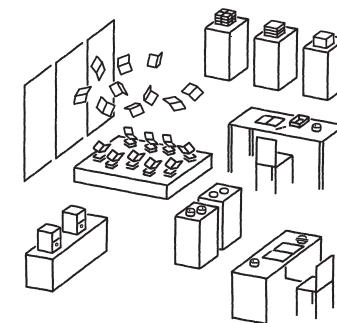


書く時間を整え、静かにペンを受け止める。
ペンが置かれていないときでも空間にそっとなじむ、
自分と向き合うための環境をつくるシンプルな
デスクインテリアです。



ブランドお披露目オフィシャルイベント開催

2026年1月24日(土)～2月1日(日)に、
SPACE D9 GALLERY(東京都渋谷区神泉)
にて、新ブランドのお披露目となるオフィシャル
イベントを開催しました。会場は、ブランドコン
セプト「余白は、可能性。」を体感していただ
けるようなさまざまな工夫を凝らした空間に
仕上げ、これまでのファンの方、初めて「MD
PRODUCT」に出会う方など皆さんに、自分と
向き合う時間の大切さを実感いただけました。



ブランドマネージャーから

From Brand Manager

2023年の「MD PAPER PRODUCT」15周年イベントをきっかけに、新ブランド誕生のプロジェクトが始まりました。この先、さらに世界中で長く愛され続けるためにどうあるべきかをチームで話し合い、歩んできた道のりを振り返りながら、ブランドの「らしさ」と「強み」を改めて見直し、新たなコンセプトにたどり着きました。ついにここまで来たという思いとともに、「MD PRODUCT」としての新章が始まります。「自分と向き合う時間を豊かにする」モノとコトを届け、「MD PRODUCT」らしい「余白」のある世界の実現へ向けて、未来へと歩みを進めてまいります。

「MD PRODUCT」ブランドマネージャー
田中風実

Information

「MD PRODUCT」のブランド公式サイトがオープンしました。
www.md-product.com

グッドデザイン賞受賞

「ミドリ」の『ボックスカッター』と『レンズ定規』が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2025年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



ボックスカッター

牛乳パックの解体やダンボールの開梱など、用途に合わせて安全にカット作業ができる多機能カッターです。

レンズ定規

15cm定規と、小さい文字を約1.5倍に拡大できる拡大鏡が一体となった定規です。

2025年のクリスマスカード

昨年皆さまにお送りした、デザインフィルのクリスマスカードは、当社の個性豊かなブランドや事業、ものづくりを支える工場が一つになって一本のツリーになる様子をデザインしました。ツリーのオーナメントが音符のようにも見え、デザインフィルの社名のコンセプトである「フィルハーモニー」にもつながっています。



それぞれのロゴが一つになって一本のツリーになる様子をデザイン

カードを開けると窓から「DESIGNPHIL」が登場する仕掛け

デザインフィル公式 note はじめました

アカウント名 DESIGNPHIL

2025年10月にメディアプラットフォーム「note（ノート）」の公式アカウントを開設しました。当社の歴史やカルチャー、個性豊かなブランド、ものづくりへの強いこだわりなど、さまざまなエピソードを通じてデザインフィルがどんな会社なのかを、皆さまに深く知っていただけるようなコンテンツを発信していきます。ぜひご覧ください。



デザインフィルホールディングス役員人事のお知らせ

2025年9月24日（水）、株式会社デザインフィルホールディングス定時株主総会を恵比寿本社にて開催し、下記役員が承認可決されました。

■ 役員一覧（2025年9月24日現在）

代表取締役会長 兼 取締役会議長	会田 一郎
取締役	会田 ゆり ※新任
取締役	豊田 栄一
取締役	太谷 博司
監査役（非常勤）	下川 良彦（株式会社キャム 代表取締役CEO）

編集後記

今号は、昨年の「PLOTTER TOKYO」オープンに続き、新ブランド「MD PRODUCT」誕生と、お届けするニュースが盛りだくさんの一冊となりました。2026年も、いくつかのブランドやプロダクトが周年を迎える、節目の年となります。新たに始めたデザインフィル公式noteでも、さまざまな情報をお伝えしてまいります。新しいデザインフィルにご期待ください。（編集長M.N）

◆ 新メンバーが加わりました。

この度、新メンバーとして加わるようになりました。デザインフィルの魅力を伝えられるよう精一杯努めてまいります。2026年、皆さまはどんな年を迎えられましたか。年を追うごとに時間が経つのが早くなっているような気がしています。慌ただしく過ぎていく日々の中でも、自分と向き合う「余白」の時間は大切にしていきたいものです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。（編集部員M.N）